

氏 名	MUHAMMAD ALIM JAYA
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第604号
学位授与年月日	令和4年6月27日
審 査 委 員	主査 教授 谷戸 正樹
	副査 教授 紫藤 治
	副査 准教授 岡本 貴行

論文審査の結果の要旨

近年、グリアがうつ病の病態に関与していることが報告されている。また、12種類の生薬成分からなる人參養榮湯（NYT）は、症例報告、および動物実験でうつ症状を改善することが明らかにされている。NYTの作用の一つに抗炎症作用があり、生薬成分の中にはグリアに対し、生理活性を有するものがある。しかし、それらの機序は未解明である。本研究の目的は、リポポリサッカライド（LPS）により誘発されたラットのうつ病様行動および海馬におけるグリアに対するNYTの効果を検討することである。Wistar雄ラットに16日間、NYTを経口投与し、LPSを腹腔内注射で計8回投与した後、強制水泳試験（FST）でうつ病様行動を評価した。また海馬におけるミクログリア、およびアストロサイトの各マーカー分子の発現を免疫組織化学的手法で定量化した。その結果、LPS注入ラットは、FSTにおける無動時間が有意に延長し、海馬におけるミクログリアマーカーIba1、およびアストロサイトマーカーGFAPの発現が有意に増加した。またNYTは、LPS注入ラットの無動時間を有意に短縮させ、海馬におけるIba1の発現を有意に抑制したが、GFAPの発現には影響しなかった。以上の結果から、NYTの抗うつ効果は、活性化ミクログリアの抑制と関連している可能性が示唆された。本研究は、うつ病治療に用いられるNYTの有効性と効果発現機序を示唆する点で臨床的重要性をもつ研究であり、学位授与に値する。